

第4章 再整備の基本的方向及び 導入施設の検討

第4章 再整備の基本的方向及び導入施設の検討

4-1. 再整備の基本的方向

計画地周辺では、山陰道北条道路や国道313号北条ジャンクションが将来開通予定であり、これによって広域的な道路ネットワークが形成され、人とモノの動きが大きく変化することが想定されます。また、道路交通網の刷新により、県中部への企業進出や、県内を周遊する広域観光が可能となり、生活圏や交流圏が拡大するなど、地域活性化に大いに寄与することが期待されます。

この機会を最大限に活かすため、代表的な地域資源である“砂丘地農業による豊かな農産物”や“白砂青松の魅力的な自然景観”等の『北条砂丘のめぐみ』を更に磨き上げ、発信することによって、地域振興の拠点となる道の駅としていく必要があります。また、県内外から訪れる道路利用者や観光客を「おもてなしの心」で迎え入れ、地域住民も集い楽しめる場とすることによって交流人口を一層拡大するとともに、地元産品の販売や食の提供、新たな雇用創出などにより、地域産業や経済を活性化し地域全体に活力（元気）を生み出していくような道の駅を目指すこととします。

■整備の目的・コンセプト【基本構想報告書より抜粋】

1) 道の駅の整備目的 [まちづくりビジョン（げんきなまちづくり）を実現すること]

北条砂丘（農業と自然）から北栄町を『元気』にすること

2) 道の駅の基本コンセプト [目的を達成するために施設が担う役割]

地域に愛され 北条砂丘の魅力に満ちた交流拠点

3) 道の駅の整備テーマ [再整備全体で一貫して表現すること]

北条砂丘のめぐみ

北栄町の『元気』とは

- ・農産物及び加工品生産者の生産・販売に対する意欲が高まり、消費者が積極的に購入したいと思える状態（北栄町産農産物ファンの創出）
- ・施設整備による利用客の滞在時間延伸に伴う物理的・経済的な賑わいの創出が生まれる状態（アウトドアを満喫、北栄町産農産物の堪能）
→ 経済的な賑わいの創出から、新たな企業進出が創出される状態

『北条砂丘のめぐみ』とは

- ・現在の北条砂丘を構成する魅力的なもの
- ・自然、歴史、景観（※白砂青松）、農業、ひと等

北条砂丘の魅力に満ちた交流拠点とは（食・遊）

～ 農業をしている方もこれからする方も「砂丘地農業がしたくなる」（食）～

- [要素]
- ・農産物を通じた生産者と消費者との繋がりがから、生産者のモチベーションアップが可能（顔が見え、評価を聞ける仕組み作りによる自己研鑽・ファンの獲得を実現）
 - ・ライフスタイルに合わせ、新しいことへの挑戦が可能（付加価値の創出による小ロットの農産物の栽培、ブランド化の実現）
 - ・農産物の味覚を堪能・発信することが可能（応援団・リピーターの獲得を実現）
 - ・農産物の高付加価値化による所得向上を実現（生産性向上、生産者の所得水準の引上げ）
 - ・耕作放棄地減少を実現（新規就農者の増、耕作面積の維持・増加）等（農業のまち「北栄町」の活性化、「北条砂丘のめぐみ」を表現した農地が一面に広がる美しい景観の実現）

～ 多様な「アウトドア体験がしたくなる」（遊）～

- [要素]
- ・多様なアウトドア体験が可能
 - ・美しい海岸を活用した充実空間の実現が可能
 - ・女性と子どもが、一日を通して楽しむことが可能
 - ・白砂青松と北条砂丘を堪能できるバンガロー等、宿泊施設の使用が可能

■北栄町まちづくりビジョン【抜粋】

■まちの将来像

～ 人と自然が共生し 確かな豊かさを実感するまち ～

美しい白砂青松と肥沃な黒ぼく大地などの恵まれた自然環境や、永年培われてきた歴史や伝統、文化など誇るべき財産を守り、北栄町が確実に前進し、町民一人ひとりが物理的な豊かさはもちろんのこと、安心して心豊かに暮らしていることを実感するまちを目指します。

■まちづくりの基本目標

- ① げんきなまちづくり（産業・観光・交流）
- ② ゆたかなまちづくり（教育・文化・スポーツ）
- ③ えがおのまちづくり（健康・福祉・子育て）
- ④ やさしいまちづくり（環境・安全・生活）
- ⑤ みんなのまちづくり（コミュニティ・町民・町）

また、地域のほぼ中間に位置する本町では、町土のランドデザインとして、東西及び南北に形成する広域交流軸を生かしたまちづくりへの取り組みが検討されています。

■町土のランドデザイン

①立地条件を生かした土地の利活用検討

- ・ 広域交流軸の東西軸と南北軸が交差するエリアは、企業・商業施設の誘致を進めることで、商業の活性化と雇用を創出する産業振興拠点として位置づけられます。また、道の駅周辺地域を結ぶ観光・周遊ルート等の観光情報を発信することで、広域交流の拠点として位置づけられます。このほか、運転免許試験場跡地については、魅力ある「コナンの里づくり」を推進するための利活用を検討します。

②砂丘地の利活用検討

- ・ 道の駅北条公園周辺エリアを含めた海岸部の砂丘地は、町の重要な資源であり、自然環境の保全に努めるとともに、砂丘地農業の将来像とあわせ、魅力ある景観を形成するような利活用を検討します。

③丘陵地の利活用検討

- ・ 南北に広がる肥沃な黒ぼく地帯では、地域の自然条件を活かした多様な農業が営まれており、基幹産業として重要な位置を占めています。豊かな自然環境と必要な森林の保全とともに、西高尾ダム周辺をはじめとするレクリエーション等の多角的な利活用を検討します。

■北栄町まち・ひと・しごと総合戦略【抜粋】

■重点目標

<p>農業の振興</p>	<p>本町は農業のまちです。大栄西瓜やねばりっこなどの農産物のさらなるブランド化、イチゴの産地化形成、6次産業化の推進などにより、現在でも県内トップクラスの新規就農者を全国一にまで引き上げ、農業の一大産業化を目指します。</p>
<p>観光の振興</p>	<p>本町は名探偵コナン（週刊少年サンデー連載中）の作者である青山剛昌先生の出身地という世界に一つしかないブランドを有しています。これまでの「コナンのまちづくり」をさらに進め、青山剛昌ふるさと館の入館者大幅増加をはじめとする交流人口の拡大を図ります。多くの方の誘客を図るには単町での取り組みは困難で、鳥取県中部エリアへの誘客を推進する広域観光組織との連携した取り組みが不可欠です。</p>
<p>未来をつくる 教育の推進</p>	<p>子どもたちが将来も北栄町に住みたいと思い、実際に住んでいただくためには、町の良さを知り、町への愛着と誇りを醸成することが必要です。鳥取中央育英高等学校との「地域探究の時間」の推進に関する協約にもとづく取り組みや、学校教育、幼児教育で地域を知る学習に取り組むことにより、地域に貢献する志の高い人材を育成します。</p>
<p>環境にやさしい まちづくりの推進</p>	<p>本町の風力発電が稼働して10年になります。大きな事故もなく発電を続け、安定した収益を上げています。この財源をもとに取り組んでいる「風のまちづくり事業」を継承するとともに、エネルギー関係での財の町外流出を防ぎ、町内での経済循環を進めます。バイオマスの活用、省エネ建築・省エネルギーフォームの推進などにより、いわゆる北栄町版エネルギー革命を起こします。</p>

■観光の振興

《基本的方向》

- ・本町の2つの道の駅を、周辺地域を結ぶ観光・周遊ルート等の観光情報を発信する広域交流拠点として位置づけ、町内観光の周遊性の向上や観光客滞在時間の延伸を図ります。

再整備後のイメージ

≪ “ひと”・“モノ”・“情報”の流れが集中する結節点の活力 → 地域活性化へ ≫

1. 情報発信機能強化（効果的な情報の発信・沿線道の駅との連携・ハブ的役割）

- 交通情報：北条湯原道路と山陰道が結節する交通の要衝におけるきめ細かな道路交通情報の発信
- 観光情報：本町及び県中部地域をはじめとした周辺地域を結ぶ観光・周遊ルート等観光情報の発信

2. 地域連携機能強化（選択肢の拡大・滞在時間の延伸・砂丘地農業の発展）

- 買う：地元産農産物・日用品のほか、キャンプ食材及び資材等をワンストップで購入（1箇所で揃う）
- 遊ぶ：オートキャンプ場を中心としたアウトドア空間の充実による遊びの提供、誰もが楽しみ遊べる施設の整備
- 食べる：地元産農産物を中心としたレストラン等の展開

※砂丘地のめぐみを実感 → 砂丘地農業の魅力を理解 → 移住定住の推進、若年層における地域の担い手育成

3. 休憩及び防災機能強化（休憩機能の充実・危機管理体制の充実）

- 休憩：白砂青松の砂丘地に風車が佇む絶好のロケーションによる癒し、その魅力的環境の中でのバンガローを利用した宿泊目的化することによる滞在時間の延伸
- 防災：災害時におけるオートキャンプ場を活用した炊き出し・給水、テント利用によるプライバシーに配慮した宿泊施設の提供

災害発生時に速やかに使用可能な物資を備えた防災備蓄倉庫の設置

集中除雪、交通事故等における車両待避スペースの確保による迅速な通行規制解除及び災害時において速やかな道路交通の確保を実現

道の駅「大栄」と「北条公園」の棲み分け

	道の駅「大栄」 コナン通りの玄関口・地元青果販売	道の駅「北条公園」 オートキャンプ場による滞在拠点・地元農産物レストランと加工品販売
地域連携機能	<ul style="list-style-type: none"> ・コナン通りの玄関口（青山剛昌ふるさと館） ・歴史・文化の発信（国史跡由良台場） ・町民が交流するお台場公園 ・「黒ぼく農業」の発信 ・地元産青果の販売 	<ul style="list-style-type: none"> ・オートキャンプ場を中心としたアウトドア空間の充実 ・「砂丘地農業」の発信 ・地元産農産物を中心としたレストラン ・ブランディングされた加工品の販売
情報発信機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ディスプレイによる道路情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・北条湯原道路と山陰道が結節する交通の要衝として、東西南へのきめ細かな情報を発信
休憩及び防災機能	<ul style="list-style-type: none"> ・「北条公園」を補完する防災拠点 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路利用者に応じた様々な休憩手段を提供 ・白砂青松に癒されながらの小休憩 ・オートキャンプ場活用による宿泊休憩 ・交通結節点に位置する立地を最大限に活用した、災害や事故発生時の主要防災拠点機能

南北双方を整備する必要性

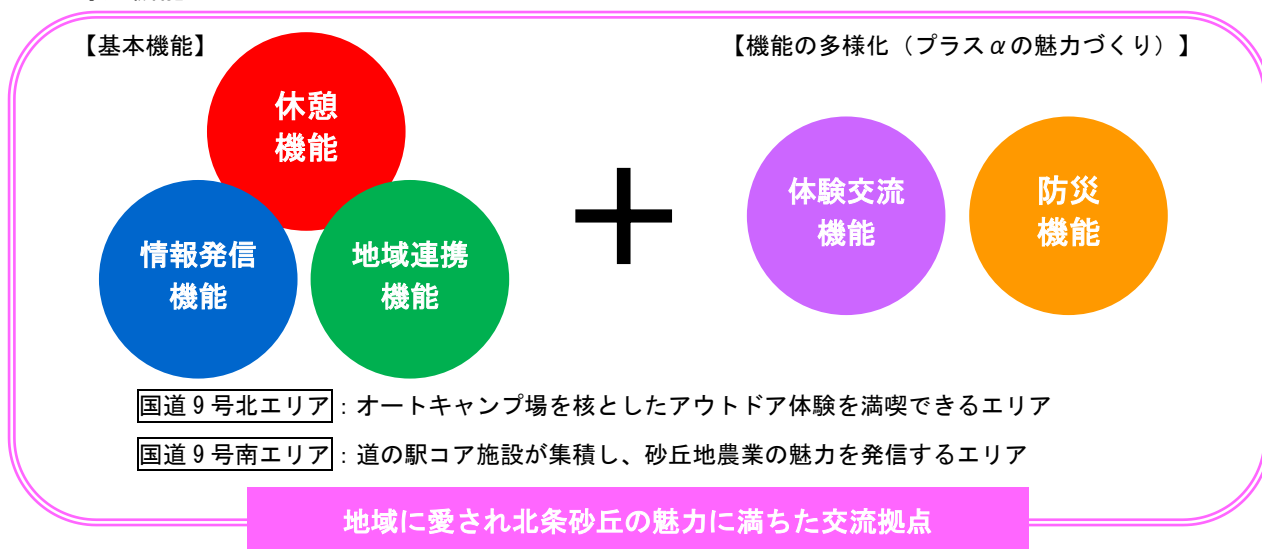
- オートキャンプ場を併設する特色ある道の駅
 - ・ オートキャンプ場を併設する道の駅としては県内唯一という特色を活かし、オートキャンプ場利用による滞在時間延伸を図る
- 道路利用者が休憩しやすい道の駅
 - ・ 南北双方に駐車場を整備することにより、道路利用者の立ち寄りやすさ・休憩しやすさを向上
- 主要防災拠点となる道の駅
 - ・ 災害や事故発生時に主要防災拠点としての機能を果たすため、南北双方の駐車場を活用した迅速かつ的確な安全確保が必要
- 「北条砂丘のめぐみ」を発信する道の駅
 - ・ 白砂青松（北）と砂丘地農業（南）の両方の特性を合わせて初めて「北条砂丘のめぐみ」と言え、道の駅再整備のテーマを実現する

4-2. 導入機能の基本方針

道の駅は、道路利用者のための「休憩機能」、「情報発信機能」、地域が連携しながら地域づくりを行うための「地域連携機能」の3つの基本機能を有しています。また、近年においては、農業・観光・コミュニティ・福祉・防災・文化・環境保全など、地域の個性や魅力を活かした様々な取り組みが行われています。

道の駅「北条公園」の再整備にあたっては、国道9号南エリアを「道の駅コア施設が集積し、砂丘地農業の魅力を発信するエリア」、国道9号北エリアを「オートキャンプ場を核としたアウトドア体験を満喫できるエリア」と位置付け、従来の3つの機能（休憩機能、情報発信機能、地域連携機能）の拡充を図ることとします。さらに、白砂青松のロケーションを活用した「体験交流機能」、ならびに大規模災害等に対応するための「防災機能」を新たに追加し、これらの機能が密接に連携し相乗効果を発揮することによって、『地域に愛され 北条砂丘の魅力に満ちた交流拠点』の実現を目指すものとします。

■導入機能のイメージ



導入機能別の基本方針（施設展開イメージ）は以下のとおりです。

導入機能	基本方針（施設展開イメージ）
休憩機能	<ul style="list-style-type: none"> すべての利用者にとって安全でわかりやすい、ゆとりある駐車場 誰もが利用しやすい清潔で広々としたトイレ 子育て世代が安心して快適に利用できる温かみのある施設 ドライバー等の疲れを癒す居心地の良い休憩施設
情報発信機能	<ul style="list-style-type: none"> 道路情報や交通情報、気象情報、災害情報等をタイムリーに提供する場 地域の観光施設（青山剛昌ふるさと館など）、イベント情報、歴史・文化等の紹介コーナー
地域連携機能	<ul style="list-style-type: none"> 北条砂丘の豊かな恵みを提供する個性が売りの産直施設 北栄町ならではの特産品を揃えた土産物販売コーナー、品数豊富な売店 地元食材を使用した美味しくヘルシーな料理を提供するレストラン
体験交流機能	<ul style="list-style-type: none"> 緑豊かな開放的な雰囲気の中で、憩い・遊べる芝生広場 収穫祭や青空市場等の多様なイベントに対応できるオープンスペース 白砂青松を満喫しながら、家族や仲間と気軽に楽しめるバーベキューコーナー アウトドア体験を満喫できるオートキャンプ場
防災機能	<ul style="list-style-type: none"> 災害時に避難スペースとして活用可能な駐車場、広場 大規模災害に備え、非常食糧や毛布等の物資を保管するための防災倉庫

4-3. 導入施設の抽出・検討

道の駅は、24 時間利用可能な「駐車場」、「トイレ」、「休憩スペース」、道路情報や観光情報などの「情報提供施設」を備えることが必須（登録要件）となっています。

■「道の駅」登録要件

休憩機能	◇駐車場：利用者が無料で24時間利用できる十分な容量を持った駐車場 ◇トイレ：利用者が無料で24時間利用できる清潔なトイレ、障がい者用も設置
情報発信機能	・道路及び地域に関する情報を提供（道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報等）
地域連携機能	・文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設
設置者	・市町村又は市町村に代わり得る公的な団体
その他の配慮事項	・施設及び施設間を結ぶ主要経路のバリアフリー化

一方、町民及び国道9号利用者を対象として実施したアンケート調査（調査時期：2018年4月27日～5月31日）によれば、道の駅「北条公園」に必要な施設として「レストラン、フードコート、カフェ」等の飲食施設をはじめ、「子供が遊べる施設、遊具等」、「農産物、特産品、加工品の販売」など多数の意見が寄せられました。

■道の駅「北条公園」に必要な施設〔町民及び利用者アンケート調査結果より抜粋〕

必要な施設	票数	必要な施設	票数
レストラン、フードコート、カフェ	157	屋内遊具、屋内スポーツ施設	26
子供が遊べる施設、遊具等	128	コンビニエンスストア	24
農産物、特産品、加工品の販売	84	商業施設	20
綺麗なトイレ	74	ドッグラン等ペットの施設	17
休憩スペース	48	駐車場	14
キャンプ場の機能強化、グランピング、キャンプ用品店	40	景色、写真スポット	12
公園、広場、芝生広場	32	ガソリンスタンド、EV充電器	12
温泉、銭湯、シャワー、足湯	30		
【その他の意見】授乳室／観光農園／体験施設／釣り場／宿泊施設／散歩・ジョギング・サイクリングコース／高齢者が集える施設／北と南を繋ぐ道路／起業できる場所／イベント施設／防災施設／アトリエ／海水浴／ここにしかないもの			

また、最近では子育て世代を応援する取組みの一環として、国土交通省が道の駅への「24時間利用可能なベビーコーナーの設置」、「妊婦向け屋根付き優先駐車スペースの確保」、「子供用トイレやキッズスペースの設置」等の施策を掲げています。

■サービスエリアと道の駅における子育て応援の取組方針（平成30年9月28日：国土交通省）

重点整備箇所	全国的高速道路のサービスエリア、国が整備した「道の駅」
整備目標	<p>(1) 基本的な機能</p> <p>①24時間利用可能なベビーコーナーの設置</p> <p>②妊婦向け屋根付き優先駐車スペースの確保</p> <p>③おむつのばら売り、④施設情報の提供</p> <p>・概ね3年以内に全ての箇所の整備を完了する</p> <p>・今年度中に対応可能なところについては、速やかに実施する</p> <p>・今後、新たに整備する箇所については標準装備とする</p> <p>(2) 更なる機能改善</p> <p>・子供用トイレやキッズスペースなど、先進事例を共有しながら順次整備を進める</p> <p>※重点整備箇所以外的高速道路のパーキングエリアや地方が整備した「道の駅」についても、高速道路会社や地方自治体と連携してニーズの高い箇所から優先的に実施する。</p>

以上の内容を踏まえ、道の駅「北条公園」再整備における導入施設を国道9号南エリア・北エリアごとに設定します。なお、導入施設の選定基準は下記の凡例に示すとおりです。

◇導入施設の選定基準【凡例】	①：道の駅必須施設
	②：町民及び利用者アンケート調査による必要施設
	③：子育て応援関連施設
	④：既存施設の活用（コスト削減）

■国道9号南エリア

機能	導入施設		選定基準	備考
休憩機能	駐車場	駐車場	①	大型車、小型車、ハートフルなど
		E V 駐車場	②	
	トイレ	24 時間トイレ	①	
	授乳室		③	
	休憩コーナー		①	
	キッズコーナー		③	
情報発信機能	情報コーナー	道路情報コーナー	①	
		地域情報コーナー	①	
地域連携機能	物販コーナー (直売施設)	農産物直売コーナー	②	
		土産物販売コーナー	②	
	レストラン		②	
	コンビニエンスストア		②	
体験交流機能	交流広場		②	
	イベントスペース		②	駅舎前スペースを活用
防災機能	駐車場、芝生広場		①②	災害時や暴風雪時の避難スペース
	防災倉庫		②	
その他	事務室、更衣室、スタッフ駐車場		—	

■国道9号北エリア

機能	導入施設		選定基準	備考
休憩機能	駐車場	駐車場	①	大型車、小型車、ハートフルなど
		R V パーク	②	
	トイレ	24 時間トイレ	①	
	休憩コーナー		①④	既設オートキャンプ場管理棟内
情報発信機能	情報コーナー	道路情報コーナー	①④	既設オートキャンプ場管理棟内
		地域情報コーナー	①④	既設オートキャンプ場管理棟内
地域連携機能	物販コーナー	農産物直売コーナー	②④	既存施設（一菜ふく福）を活用
	飲食施設		②④	既存施設（北条製麺所、焼肉母大笑、フレッシュ [®] エート店）を活用
体験交流機能	バーベキュー棟（北条オートキャンプ場）		②	

4-4. 導入施設の整備方針

4-4-1. 国道9号南エリア

(1) 休憩機能

① 駐車場

- ◇「小型車」、「大型車」、「自動二輪車」、「自転車」など、あらゆる交通手段の方が利用可能な駐車場・駐輪場を整備します。
- ◇将来交通量等を基にして、ゆとりある駐車台数を確保します。
- ◇北エリアへのアクセス向上策（歩道の設置等）について検討します。
- ◇小型車と大型車の駐車スペースを分離し、相互の車両動線が極力交差しない計画とします。
- ◇駐車場内の歩行者通路をカラー舗装にするなど、歩行者の安全確保に努めます。
- ◇ハートフル駐車場は、建物（トイレ等）に近い場所に設置し、障がい者等が安全かつ円滑に移動できるような計画とします。また、雨天時や積雪時にも快適に利用できるよう「屋根付きの駐車場」の整備について検討します。
- ◇場内に「電気自動車用充電設備（EV用急速充電設備）」を設置します。
- ◇夜間時に安全かつ安心して道の駅を利用するため、場内の適所に照明灯を設置します。また、省エネルギー及び再生可能エネルギー普及促進の観点から、LED、ソーラー照明灯（またはハイブリッド照明灯）等を積極的に採用します。



▲小型車と大型車の駐車スペースを分離し、カラー舗装によって歩行者動線を明確にした事例



▲雨天時や積雪時にも快適に利用可能な屋根付きの「ハートフル駐車場」（左写真）、「駐輪場」（右写真）の整備事例

▲環境に優しい「EV用急速充電設備」

②トイレ

◇道路利用者等が24時間安心して快適に利用できるよう、十分な明るさの確保や換気対策、緊急時対応策等に配慮した清潔で明るい雰囲気トイレを整備します。

◇身体等に障がいのある方や高齢の方などの利用を踏まえ、多目的トイレ（多機能トイレ）を設置します。また、車いす使用者が快適に利用できるスペースの確保、便器の洋式化・温水洗浄便座への更新、手すりや便座背後への背あての設置、ならびにオストメイト（人工肛門保有者、人工膀胱保有者）対応等について検討します。

◇乳幼児連れの利用者等への配慮として、ベビーカーと一緒に入ることができるトイレやベビチェア、ベビシート、多目的シート、子ども用トイレ、チェンジングボード（着替え台）、荷物置き用の棚などの設置について検討します。

◇近年のインバウンド（訪日外国人旅行者）観光の急増を受け、多言語表記やピクトグラムでの案内に配慮したトイレとします。



▲24時間利用可能な清潔で明るい雰囲気のトイレ



▲オストメイト対応器具の設置
▲高齢者や身障者に配慮した便座背後の背あて



▲緊急時の呼出しボタンを設置した事例



▲ベビチェア



▲ベビシート



▲多目的シート



▲子ども用トイレ



▲チェンジングボード（着替え台）



▲荷物置き用の棚



▲多言語表記とピクトグラムによる案内事例



ISO7000-3609 便器洗浄（大）	ISO7000-3610 便器洗浄（小）	ISO7000-3611 おしり洗浄
ISO7000-3612 ビデ洗浄	ISO7000-3613 便ふた開閉	ISO7000-3614 便座開閉

▲温水洗浄便座のピクトグラム

③授乳室

◇子育て世代に対応した道の駅とするため、24 時間利用可能な授乳室（ベビーコーナー）を設置します。

◇授乳室には、授乳コーナーの他に、おむつ替え台、シンク、調乳専用機等を一体整備することにより、赤ちゃん連れの利用者が安心かつ快適に利用できるよう努めます。



▲乳幼児連れのお母さんを優しくサポートする「授乳室」



▲授乳コーナーとおむつ交換スペース等を一体整備した事例

④休憩コーナー

◇道路利用者が運転の疲れを癒したり、休憩しながら道路情報等を確認できるよう屋内休憩コーナーを整備します。

◇休憩コーナーは、トイレや情報コーナー、物販コーナーと近接させることにより、利便性に富んだ空間として整備します。また、室内には気軽に休憩できるようベンチやテーブルを設置します。



▲情報コーナーに併設された「屋内休憩スペース」

⑤キッズコーナー

◇子育て世代に配慮した施設として、キッズコーナーを休憩コーナーに併設します。

また、家族の滞在時間が延長される仕組みや、安心して子供を遊ばせられる配置等について検討します。



▲子連れで楽しめる「キッズコーナー」

(2) 情報発信機能

①道路情報コーナー

- ◇主要な道路となる山陰道や国道9号をはじめ、周辺道路の交通状況、気象情報、災害情報等をリアルタイムで提供します。
- ◇多くの人が、道路情報等を映像で一度に確認できるよう、デジタルサイネージ（ディスプレイなどの電子的な表示機器を使って情報を発信するシステム）の設置について検討します。
- ◇室内にはチラシやポスター等を設置するための掲示板や、各種パンフレットを取り揃えた棚等を整備します。

②地域情報コーナー

- ◇町の玄関口として、町内の観光情報や周辺施設を紹介します。また、鳥取県中部に位置する地理的条件を活かし、県全体の様々な観光や地元産品の情報を幅広く提供します。
- ◇豊富な農産物や体験型の観光農園など北栄町の基幹産業である「農」に関する情報提供の充実に努めます。
- ◇無料公衆無線LAN環境（Wi-Fi）やキャッシュレス環境を整備し、外国人観光客にも対応できる環境整備について検討します。また、多言語化に対応したパンフレット等を設置し、インバウンド観光の充実に努めることを検討します。



▲大型ディスプレイによって多様な情報を発信する「情報コーナー」



▲ポスター、パンフレット等による道路情報や地域情報の提供



▲無料Wi-Fi環境を整備した道の駅SPOT

③観光総合窓口の開設・観光案内コンシェルジュの配置

- ◇道の駅への観光総合窓口の開設、ならびに北栄町観光協会等との連携による地域の観光やサービス案内を行う「観光案内コンシェルジュ」の配置について検討します。



▲観光案内コンシェルジュを配置した道の駅の総合窓口

④町内移住に関する情報提供

- ◇北栄町へのI・J・Uターンを促進するため、空き家や補助金制度に関する情報を容易に得られるようにします。
- ◇移住体験ツアーの実施、就農支援など、町の魅力を伝えるための取り組みやPRに積極的に努めます。

(3) 地域連携機能

①農産物直売コーナー

- ◇長芋、ねばりっこ、ぶどう、らっきょうなど、北条砂丘の豊かなめぐみを全面に押し出した個性的な直売所を整備します。
- ◇北栄町ふるさと納税関連商品を取り扱うことで町の魅力発信を図ります。
- ◇車いす使用者や子どもが手に取りやすい棚の設置、余裕のある通路幅の確保、商品の陳列や照明の工夫など、お客様が店内を「歩きやすく」「見やすく」「選びやすく」「買いやすい」レイアウトに努めます。
- ◇POP広告の効果的な活用、美味しい食べ方レシピの紹介、試食サービス、インターネットやSNSを用いた情報発信など、農産物の魅力を伝えるための工夫により、消費者の購買意欲を高めます。



▲地元の新鮮野菜や果物が並ぶ「農産物直売所」



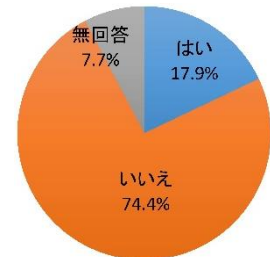
▲車いす使用者の利用を考慮した余裕のある通路幅の確保



▲購買意欲を刺激するPOP広告

●【参考】道の駅「北条公園」への農畜産物の出荷意向

- ・平成31年2月5日～3月31日に実施した「農産物生産者・加工品生産者へのアンケート調査結果」によれば、全体の17.9%の方が道の駅「北条公園」の農産物直売所へ出荷したいと回答している。
(全273名中、49名の出荷意向あり。)



②土産物販売コーナー

- ◇加工品を核とした土産物販売コーナーを整備し、地域の活性化に努めます。
- ◇北栄町の農産物を活かしたオリジナル商品の開発・販売に取り組むことにより、他店・他商品との差別化を図り、地域特産物のブランド化につなげます。
- ◇地元商店と連携した商品販売コーナーの設置について検討し、地元特産物のPRに努めます。



▲地元特産品やオリジナル商品を販売する「特産品売り場」

③レストラン

◇北栄町の新鮮な素材を活用したメニューを多数味わうことができ、食の安全安心にこだわった個性的なレストランを整備します。

(例：北栄町の特産品である北条ワインのブランド力を広く内外に発信するため、ワインに合った料理や、新鮮な農産物を活用したメニューを開発提供します。)

◇料理の品数や種類を豊富に取り揃えとともに、季節ごとにメニューを変化させることによって、幅広い世代の集客やリピーターの確保に努めます。



▲明るく開放的な雰囲気のレストラン



▲ブドウ棚を仰ぎ見ながら料理を楽しめるレストラン



④コンビニエンスストア

◇食品や日用雑貨類などを多数取り揃えたコンビニエンスストアを整備し、道路利用者等の集客拡大を図ります。また、キャンプ資材等を購入できるような品揃えとし、キャンパーへのサービス水準を高めます。(道の駅は画一化された品揃えに乏しいが、その一方で地元ならではの食やオリジナル商品など地域性を全面に押し出せるのが特徴です。このため、道の駅物販施設とコンビニエンスストアとの役割分担や連携は可能と考えられ、現に道の駅敷地内にコンビニエンスストアを有し、相乗効果を上げている事例もあります。)

◇コンビニエンスストアは、道の駅施設と運営時間帯が異なるため、直売・物産商品の夜間販売などの連携体制について検討します。また、一般にコンビニエンスストアは営業時間が長いことから、夜間利用者に対するサービス確保、周辺住民の生活サポート等、道の駅全体の安全安心を担う施設として位置づけることができます。

●コンビニエンスストアを有する鳥取県内の道の駅



▲道の駅「はわい」



▲道の駅「ポート赤碕」

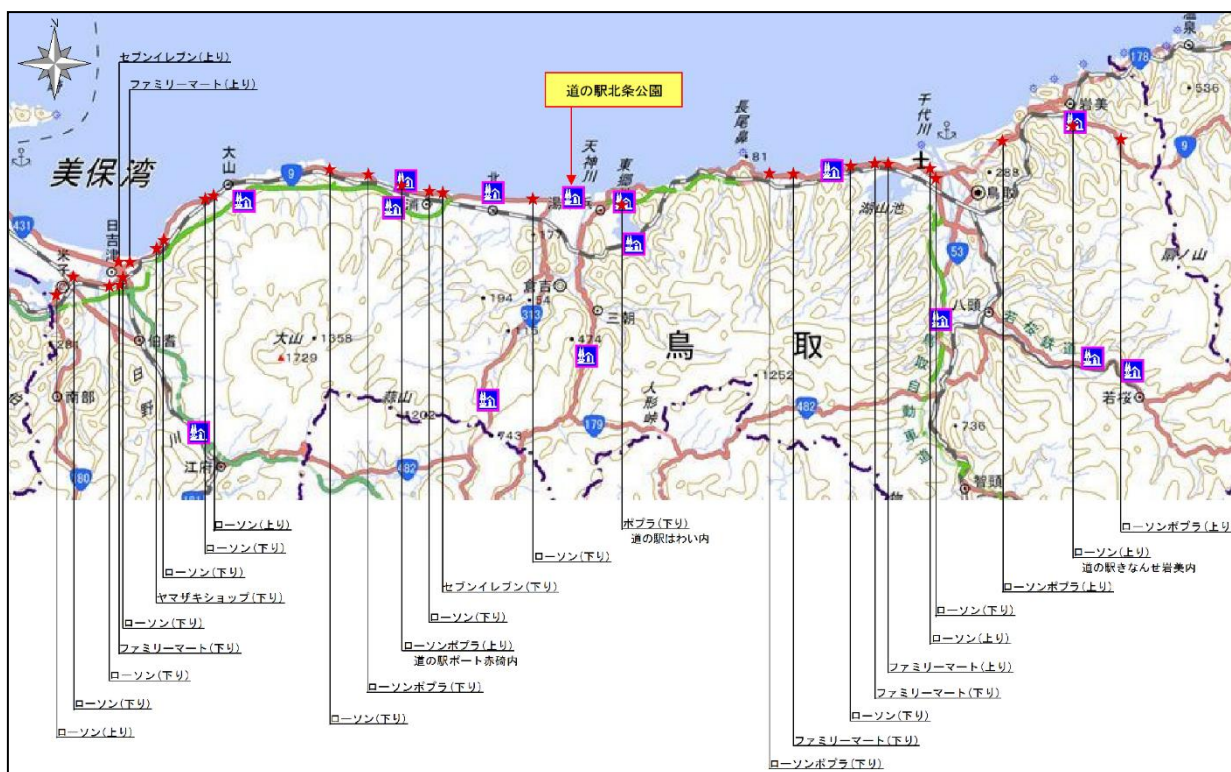


▲道の駅「きなんせ岩美」



▲道の駅「清流茶屋かわはら」

●国道9号沿線におけるコンビニエンスストアの分布状況



平成30年3月時点

(4) 体験交流機能

①交流広場

◇道路利用者のリフレッシュ、ピクニック、軽スポーツ、イベント開催（地域住民イベント、道の駅販売促進イベント）など、多目的に利用できるオープンスペースとして交流広場を整備します。

◇北栄町が誇る「農」の魅力を最大限活用し、体験交流機能の拡充を図ることを目的として、広場内へのブドウ棚の設置について検討します。



▲家族団らんでのピクニック



▲ボール遊び



▲イベントの開催



▲ブドウ棚の設置による「農」の魅力発信

②イベントスペース

◇道の駅利用者へのおもてなし、北栄町の特産品や観光スポットのPRを目的として、駅舎前のスペースを利用し、青空市場をはじめとした各種イベントの開催について検討します。

◇青空市場では、新鮮なとりたて野菜・果物・切花から、おこわなどの加工食品まで豊富な品揃えのブースを複数出店することにより、地産地消を図る新たな観光資源として定着させることを目的とします。



▲大勢の買い物客で賑わう活気のある青空市場



▲スイカの種とばし大会



▲金魚すくい

(5) 防災機能

① 駐車場、交流広場

◇災害時における車両待避場所など、多様な使い方ができるフレキシブルなオープンスペースとして、敷地内の駐車場、交流広場を有効に活用します。

●北栄町地域防災計画による道の駅「北条公園」の位置づけ

北栄町地域防災計画によれば、道の駅「北条公園」は“火災・地震時における緊急避難場所（一時避難場所）”及び“地理に不案内な観光客や、道路状況の悪化（暴風雪や台風など）により北栄町に滞留を余儀なくされた国道・県道上の車輛通過者に対する避難誘導先”として位置づけられている。

●記録的大雪による国道9号の立ち往生の状況（2010.12.31～2011.1.2）

山陰地方の記録的な大雪のため、鳥取県琴浦町から大山町の国道9号で2010年12月31日から2011年1月2日にかけて最大約20キロにわたり約千台の車が立ち往生し、JRでも約1200人が鳥取、島根両県で動けなくなるなどして列車内で年を越した。国道9号の通行止めは2日午前8時半ごろ解除され、渋滞は約42時間ぶりに解消。停車した列車も2日未明に動き始めたが、年末年始の交通機関は大混乱した。鳥取県によると31日午後2時ごろ、大山町でタンクローリーが雪でスリップし、国道9号の上下線をふさいで渋滞が発生。撤去後も数カ所でトラックなどがスリップし道をふさぐなどして渋滞が続いた。県は1日未明、陸上自衛隊に災害派遣を要請。自衛隊員らが雪に埋もれた車への給油や食料配布などの支援をした。気象庁によると、大山町に隣接する米子市の1日午前5時の積雪は89センチと、観測を始めた1940年以降で最多を記録した。



◇マンホールトイレ、給水タンク、非常用電源装置の設置について検討します。

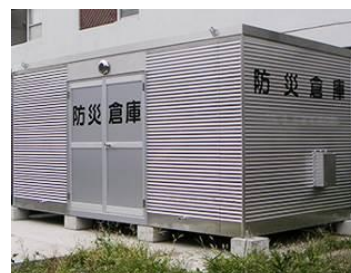
◇災害時の燃料補給拠点となるガソリンスタンドの設置について、民間事業者へ提案することを検討します。

② 防災倉庫

◇大規模災害に備え、非常食糧や毛布等の物資を保管するための施設として「防災倉庫」を設置します。

●主な保管物資（案）

ポンプ（揚水・放水が可能なもの）／ホース（消防用の大口径のもの）／消火器／救出用具一式（シャベル、ツルハシ、ハンマー、バールなど）／簡易トイレ／ロープ／リヤカー／土嚢用の袋／防寒用の毛布／非常食糧／飲料水／医薬品／コンロ／浄水器／給水タンク／発電機／ライト／ラジオ／燃料／炊き出し用の調理器具（釜・鍋・蒸し器など）



▲防災倉庫

4-4-2. 国道9号北エリア

(1) 休憩機能

① 駐車場

- ◇「小型車」、「大型車」、「自動二輪車」、「自転車」など、あらゆる交通手段の方が利用可能な駐車場・駐輪場を整備します。
- ◇将来交通量等を基にして、ゆとりある駐車台数を確保します。
- ◇南エリアへのアクセス向上策（出入口、歩道の設置等）について検討します。
- ◇小型車と大型車の駐車スペースを分離し、相互の車両動線が極力交差しない計画とします。
- ◇駐車場内の歩行者通路をカラー舗装にするなど、歩行者の安全確保に努めます。
- ◇ハートフル駐車場は、建物（トイレ等）に近い場所に設置し、障がい者等が安全かつ円滑に移動できるように計画します。
- ◇オートキャンプ場方面への騒音影響等（特に大型車両駐車に伴う夜間時のアイドリングによる騒音、排気ガス、採光など）を考慮し、大型車駐車をオートキャンプ場エリアからできるだけ離れた位置に配置します。

② RVパーク

- ◇キャンピングカーユーザーや車中泊者の利用を考慮して、場内にRVパークを設置します。
- ◇RVパークには、ゆったりとした駐車スペースを確保するとともに、スマートフォンの充電や電気製品の利用が可能な「AC電源」を配備します。



快適に車中泊ができ、安全・安心な“くるま旅”を後押しする「RVパーク」

③ トイレ

- ◇道路利用者等が24時間安心して快適に利用できるよう、十分な明るさの確保や換気対策、緊急時対応策等に配慮した清潔で明るい雰囲気トイレを整備します。
- ◇身体等に障がいのある方や高齢の方などの利用を踏まえ、多目的トイレ（多機能トイレ）を設置します。また、車いす使用者が快適に利用できるスペースの確保、便器の洋式化・温水洗浄便座への更新、手すりや便座背後への背あての設置、ならびにオストメイト（人工肛門保有者、人工膀胱保有者）対応等について検討します。
- ◇乳幼児連れの利用者等への配慮として、ベビーカーと一緒に入ることができるトイレやベビーチェア、ベビーシート、多目的シート、子ども用トイレ、チェンジングボード（着替え台）、荷物置き用の棚などの設置について検討します。
- ◇近年のインバウンド（訪日外国人旅行者）観光の急増を受け、多言語表記やピクトグラムでの案内に配慮したトイレの設置について検討します。

④休憩コーナー

◇既存施設であるオートキャンプ場管理棟内のスペースを有効活用して屋内休憩コーナーを設置します。

◇ベンチやテーブルを中央に配置することによって、休憩しながら道路情報等を見渡せるようなレイアウトとします。



▲北条オートキャンプ場管理棟（既存施設）

(2) 情報発信機能

①情報コーナー

◇現在、情報発信機能を担っているオートキャンプ場管理棟（既存施設）を道の駅再整備後も引き続き活用し、道路利用者等が休憩しながら道路情報や周辺観光情報等を確認できるようにします。

◇当該管理棟は、北条オートキャンプ場の総合窓口としての機能を担っているため、キャンプ情報をはじめ、町内イベント情報、グルメ情報等についても紹介し、地域の魅力向上を推進します。

◇室内にはチラシやポスター等を設置するための掲示板や、各種パンフレットを取り揃えた棚等を整備します。

(3) 地域連携機能

①農産物直売コーナー

◇国道 9 号北エリアには、農産物直売施設として「一菜ふく福」（合同会社 丸勝青果が運営）が立地しています。当該施設は、道の駅再整備後も現状のまま存置する計画とします。

②飲食施設

◇「一菜ふく福」の周辺には、自家製手打ちうどんを賞味できる「北条製麺所」、予約制貸切焼肉店の「焼肉 母大笑」（いずれも㈱チュウブが運営）、お洒落なジェラートの店「ガガフレッシュジェラート北栄店」が位置しています。いずれの店舗も、道の駅再整備後も現状のまま存置する計画とします。

(4) 体験交流機能

①バーベキュー棟（北条オートキャンプ場）

◇宿泊だけでなく気軽な日帰り等による多様なアウトドア体験のニーズに対応するため、場内にバーベキューサイトを新たに整備します。

◇白砂青松の恵まれたロケーションの中で、誰もが気軽に新鮮な肉や野菜、魚介類を堪能できるようにします。

◇バーベキューの食材や資材を管理棟でレンタル・販売することにより、手ぶらで訪れたアウトドア初心者や女性客でも気軽に日帰りキャンプを楽しめるようにします。また、バーベキューサイトを管理棟に隣接した位置に整備することにより、利用者への迅速なサービス提供、管理運営の効率化を図ります。



アウトドア初心者や女性客でも気軽に楽しめる“手ぶら”でバーベキュー

4-4-3. 整備方針における補足事項

必要機能の検討に当たっては、実際の管理運営者と共に、導入機能や整備内容を決定していくことが、効率的で魅力ある管理運営を行っていく上で重要であることから、今後、管理運営者を早期に選定し、管理運営者の意見を最大限に反映させた設計となるよう検討していきます。

また、導入機能の南北エリアでの棲み分けについても管理運営者と協議の上、検討していきます。そのため、これまで本章に記載した内容については、管理運営者や関係機関との協議により、その一部について内容を変更することがあります。